

移住相談専門機関・団体へのヒアリング結果

平成27年7月21日

JOIN（一般社団法人移住・交流推進機構）

NPOふるさと回帰支援センター

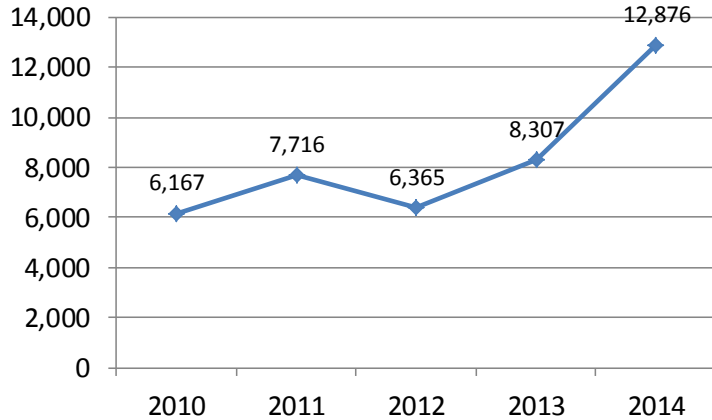
銀座NAGANO

平成27年8月

中野市

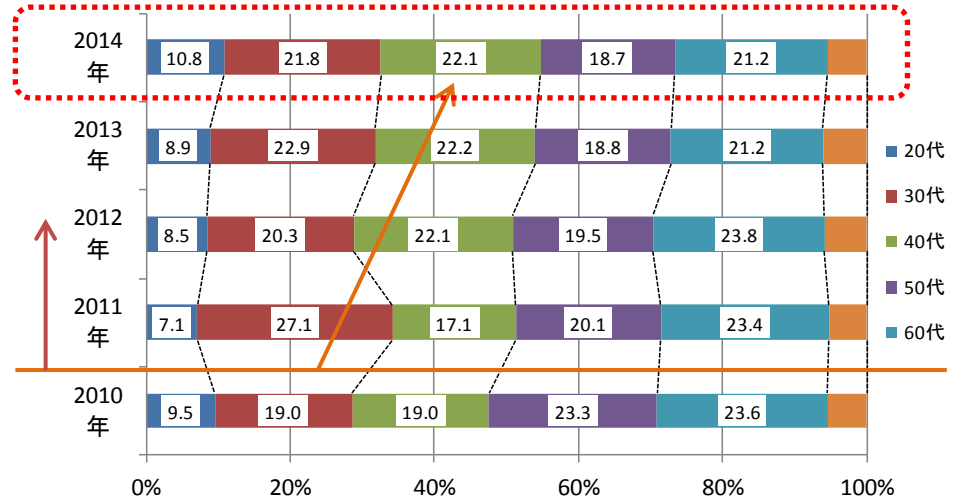
移住相談件数と内容について

移住に関する相談件数の推移



(データ出所) NPOふるさと回帰支援センター

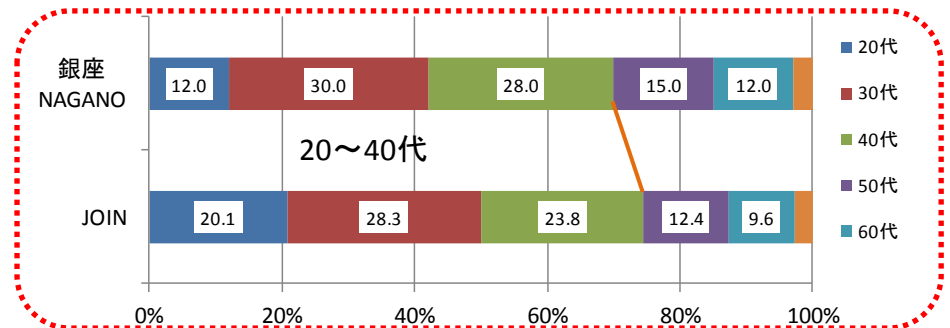
移住を希望する年齢層の割合の推移(%)



(データ出所) NPOふるさと回帰支援センター

- ・移住に関する相談件数は**4年前に比べて倍以上**に増加しています(NPOふるさと回帰センター)
- ・移住を希望する年齢層の割合では、**近年は若年層(20~40代)が増えています**。2014年では、NPOふるさと回帰支援センターで54.7%(2010年同47.5%)、銀座NAGANO 70.0%、JOIN 73.2%となっています
- ・若年層の割合が増えている要因として、「リーマンショック」「東日本大震災」が**若年層の考え方や生き方に少なからず影響を与え**、「現状の生活から新しい違う生き方に変えてみたい」という意識もあるようです(3団体のヒアリングより)
- ただ、**50代以降の相談件数が減ったというわけではありません**(全体の比率が落ちているということです)

銀座NAGANO(移住相談)、JOIN(一般社団法人移住・交流推進機構)の2014年の移住を希望する年齢層の割合(%)



(データ出所) 上記2団体より

移住相談者の移住希望先について

移住の都道府県別希望先ランキング

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1位	福島県	長野県	長野県	長野県	山梨県
2位	長野県	福島県	岡山県	山梨県	長野県
3位	千葉県	千葉県	福島県	岡山県	岡山県
4位	岩手県	茨城県	香川県	福島県	福島県
5位	山形県	岩手県	千葉県	熊本県	新潟県

(データ出所) NPOふるさと回帰支援センター

・NPOふるさと回帰支援センターによると、移住人気として**長野県は常にトップクラス**にあります
 ・3団体によると、長野県内で人気のある移住先として、北信では飯山市、須坂市、長野市、千曲市などが入っています(ランキング集計なし)
 ・移住相談者の中には、「市」や「町村」をピンポイントで希望しないで安曇野エリアとか諏訪地域などと、エリアを希望しているケースもあるそうです。

・3団体によると、人気があるのは「旅行先として人気」(松本市)「移住担当者や専門アドバイザーの熱意と温かさ」(飯山市、大町市、須坂市、駒ヶ根市、飯島町など)「医療体制の充実・安心感」(佐久市)、「田舎暮らし体験・お試し・農家民泊体験」(飯山市、須坂市、伊那市)、「子育て・教育環境のよさ」(伊那市、下条村)、「空き家バンクの充実」(佐久市・小諸市)、「交通アクセスの良さ」(東信エリア全般)、都市機能が充実(長野市、松本市)に優位があるところのようです。

長野県の中での人気のある移住先、エリア(※ランキング集計なし)

一般財団法人移住・交流推進機構	NPOふるさと回帰支援センター	銀座NAGANO(移住相談)
安曇野市、伊那市、佐久市、大町市、長野市、松本市、須坂市、駒ヶ根市、下条村、飯山市	飯山市、駒ヶ根市、大町市、佐久市、松本市、安曇野市、飯島町、茅野市、長野市、小諸市	上田市、佐久市、諏訪地域、松本市、安曇野エリア、佐久市、小諸市、長野市、千曲市、駒ヶ根市、須坂市

移住希望者が移住先に望む条件は(問4)

問4 移住希望者が望んでいる移住先に必要な条件はどのようなものですか。移住希望者のニーズを考える上であてはまるところに○をつけてください

	重要である (もっとも関係がある)	どちらかといえば重要である	どちらともいえない	どちらかといえば重要でない	重要でない (関係がない)
自然が豊かである	①	②	3	4	5
気候(降雨雪量、気温)	1	②	3	4	5
災害が少ない	①	②	3	4	5
地元の人の温かさ	①	2	3	4	5
食べ物が美味しい	①	2	③	4	5
趣味が活かせる	①	2	③	④	5
園芸ができる	①	2	③	④	5
身近に観光スポットがある	1	②	③	④	5
首都圏からのアクセス	①	2	③	4	5
働き口	①	2	3	4	5
起業のしやすさ	①	2	3	4	5
住宅の広さ(戸建て庭付きなど)	①	②	③	4	5
子育て・教育環境	①	2	③	4	5
医療・福祉施設、福祉サービスの充実性	①	2	③	4	5
行政等の移住者への支援制度	①	②	③	4	5
公共交通の利便性	①	2	③	4	5
日用品の買物環境	①	②	3	4	5
移住者同士の交流	①	2	③	4	5
物価、生活コスト	①	②	3	4	5
娯楽・レジャー施設	1	②	③	④	5
アウトドアの機会	1	②	③	④	5
空き家情報	①	2	3	4	5

・3団体が最も重要であるとしているのが「**自然が豊か**」「**地元の人**の温かさ」「**働き口**」「**起業のしやすさ**」「**空き家情報**」です

・「**どちらともいえない**」「**どちらかといえば重要でない**」という選択肢も、年代層によってはニーズが違ってきます。例えば「**趣味が活かせる**」「**園芸ができる**」などは、「**若年層には重要ではないようですが、シニア層が多ければ高い要素となる**」(JOIN)とのことです。

・「**子育て・教育環境**」「**医療・福祉施設・福祉サービスの充実性**」「**公共交通の利便性**」「**日用品の買物環境**」「**移住者同士の交流**」「**物価・生活コスト**」なども重要なポイントのようです。

これ以外に移住希望者が移住先に求める条件としては、

- ・ハローワーク情報だけでなく**仕事の情報が欲しい**(NPOふるさと)
- ・小中の情報はわかるが**高校の情報**(どんな特色があるのか)が欲しい(NPOふるさと)
- ・都会の生活に慣れているので**ある程度の都市機能が必要**(田舎すぎるのはだめ)(JOIN)
- ・**安全で安心できる環境**(NPOふるさと、銀座NAGANO)
- ・**老後のケア体制**(施設など)(銀座NAGANO)
- ・**移住者の実生活がわかる情報の公開**(例えば移住者の家計簿の公開、生活の具体的な内容、近所とおつきあい、公共交通の利便性(バス・電車の運行頻度)等)があげられるようです。

いずれにしても、「**移住先に求めるものは、移住者の背景や置かれている状況によって千差万別であり、ひとりひとりに寄り添ったサポートが必要**」(JOIN)とのことです

○ JOIN △ NPOふるさと □ 銀座NAGANO

移住希望者が最終的に移住先を決めるポイント (各世代・属性別)

	JOIN	NPOふるさと回帰支援センター	銀座NAGANO
リタイア組 (55歳頃～年金受給前ぐらい)	<ul style="list-style-type: none"> ●「永住」覚悟で地域さがし <ul style="list-style-type: none"> ・仕事一筋できた方が多く、地域さがしと仕事さがしの両方がポイント。長く住み続けるためには地域及び地域住民に浸透しなければならず、旅行でも体験ツアーでも現地に足を運べるかが重要 ・潜在的な移住希望者にファンになってもらう仕掛けが重要 ・家族やパートナーの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ●住む上での環境を重視 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ便利な場所(田舎すぎるのはNG) ・公共交通の利便性、病院・福祉施設の整備、買い物場所の有無、首都圏からのアクセスのよさを求める ・シニア層の働ける職種や場所 ・近所とのお付き合いに不安がある。どんな市民活動があるのか、どのようなローカルルールがあるのかの具体的な情報を求めている 	<ul style="list-style-type: none"> ●老後は自然豊かなところで暮らしたい <ul style="list-style-type: none"> ・自分がやりたかったことの実現の場 ・住まいや日常生活(生活費)、働く場についての詳細な情報 ・老後の健康に関する不安のため、病院・ケア施設情報の充実性
20～50代前半ぐらい	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事、住まい、子育て <ul style="list-style-type: none"> ・一番の要素は「仕事」。年齢や家族構成、移住の目的などに応じてターゲット別に仕事の案件が紹介されるか ・「起業」よりも会社に「雇用」される方が多い傾向にある ・地域の特色を活かした教育や子育て世代が働きやすい職場環境の整備 ・ゆったりとした環境で子どもを育てられるか 	<ul style="list-style-type: none"> ●欲しい情報は「仕事」、子育て世代は「教育環境」 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと「仕事」の情報が欲しい。ハローワークだけでは足りない。ネット、ローカル情報誌など充実させて欲しい ・子育て世代の「母親」にとって同じ境遇の人との接点・交流があるか(ストレス解消の場も含めて) ・同世代、同じ趣味や価値観を持った人とのコミュニケーションの場の有無 ・地域の「教育」の特色を知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事、子どもの教育環境を重視 <ul style="list-style-type: none"> ・まず「仕事」があるか ・子育て世代には子どもの教育環境、安心・安全な地域。災害の少なさ ・Uターンの場合は両親の近隣
単身(未婚)など	<ul style="list-style-type: none"> ●自己実現の場としての移住 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい価値観を持った若者が積極的に地方を選ぶ傾向が増加、彼らの求めているチャレンジできる場(機会)や仲間がいるか。 ・地域で活躍する若手キーマンがいるとSNSを中心に仲間が広げられる。地元で活躍する若者の情報発信力が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●より多彩な情報 <ul style="list-style-type: none"> ・貸家情報、耕作放棄地の提供情報により起業や新規就農につながる ・多様な価値観を持った方に対し、地域の受け入れ態勢のよさ 	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい生き方、違った生き方の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな「仕事」があるか ・都会の暮らしとは根本的に違ったライフスタイルができるか

・移住希望者は各世代や属性の違いによって移住先に求めるものに違いはありますが、「情報」の充実性、例えば「仕事があるかないか」「住む上での環境はどうか」などを重要とみているようです

相談者から見て移住希望先として関心の高い地域と自治体の取組事例など (問11)

(JOIN)

- ①佐久市……**専門アドバイザー**がいる。高度医療の安心感がある。空き家バンクも充実
- ②松本市……首都圏とのアクセスもよく、商業施設等利便性がある。都市機能が備わっている
- ③伊那市……地域に根差した教育とお試し体験施設の充実
- ④原村……高原という自然環境、**田舎暮らし案内人**を配置し熱心に対応
- ⑤塩尻市……市の職員に**若手のキーマン**がいる。彼がいろんなことを仕掛けている。若者を中心にしたまちづくりプロジェクトが充実していて、若い発想が賛同する若者を呼び、町の活性化につながっている

(NPOふるさと回帰支援センター)

- ①駒ヶ根市…**専門アドバイザーの設置**。官民一体となり移住希望者の対応。季節のよくない一番寒い時期にも体験ツアーを企画体験
- ②飯山市……年間プログラムで現地体験を取り入れたツアーを開催。仕掛け人は**市の職員**、民間の宿泊施設(戸狩温泉)を利用するなど、官民で協力
- ③大町市……自身も移住者である**専門のアドバイザーを7人設置**。移住者ならではの体験をもとに相談に乗っている

(銀座NAGANO)

- ①佐久市……空き家バンク充実、お試し住宅がある。通勤費の支援等もある
- ②諏訪地域…首都圏においてこまめに移住セミナー等(そばうち体験なども)を開催、広域で合同して取り組んでいる
- ③安曇野……自然豊かな環境、北アルプスの絶景は移住希望者の憧れ

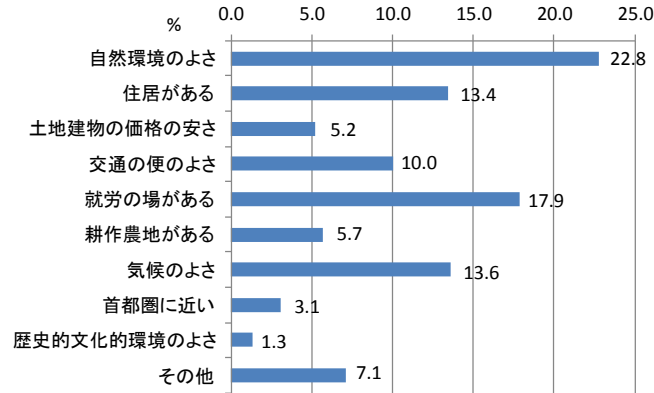
移住相談担当者から中野市に求める自由意見など

(問12)

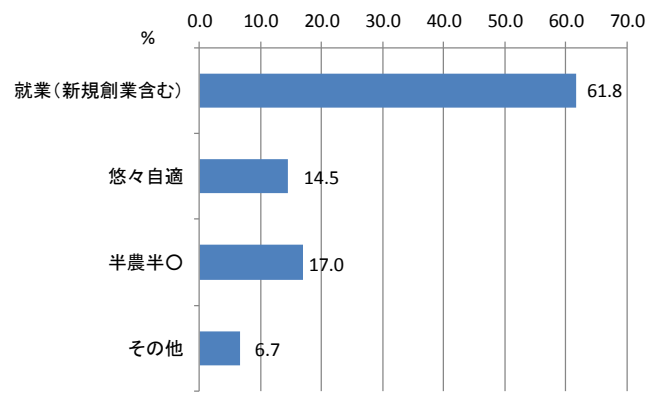
- ・まず、首都圏の方にとって、中野市は人気、注目度とも低いほう。それは、首都圏在住者向けの移住セミナーを開催していない、移住に関する情報が移住相談者に届いていないなどが理由と思われる。
- ・移住セミナーなどイベントを積極的に行っている他の自治体と比較すると、現時点では認知度の面で後れを取っていると感じる(3団体とも)
- ・中野市は観光などを通して自然の美しさや地域に暮らす方々に良いイメージを持っている方が多いと感じるが、移住したいという気持ちにまで至っていないと思う。中野市の良さをもっとPRした方がよいと思う(銀座NAGANO)。
- ・移住のPRは、自治体の職員よりも「先輩移住者」と言われる方が、マイナスも含めた実体験を自分の口で語ることで効果がある。地元の方がマイナスと思っていることが、逆に移住相談者にとってマイナスにならないことも多い。要は、包み隠さず市をPRする役割として先輩移住者の力を借りることも必要(NPOふるさと回帰支援センター)

首都圏居住者、田舎ぐらし希望者のニーズ、関心事(参考データ)

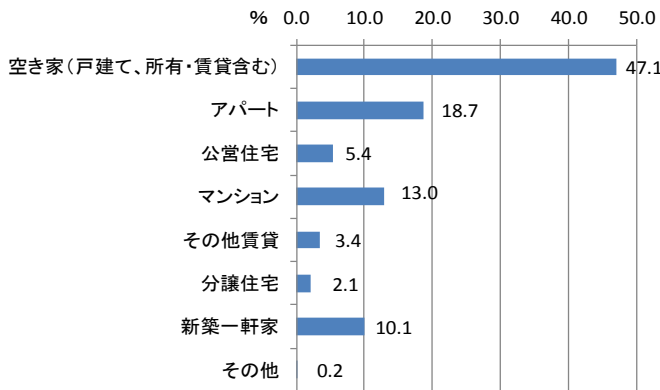
① 移住地選択の優先順位



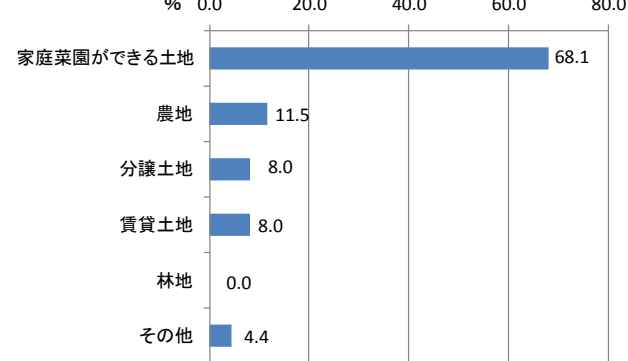
② 希望するライフスタイル



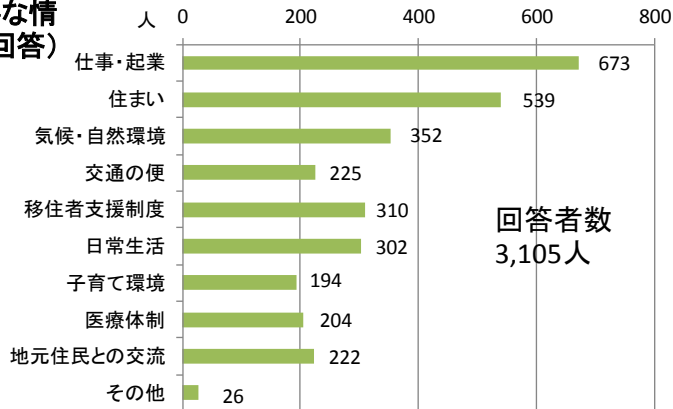
③ 希望物件(建物)種別



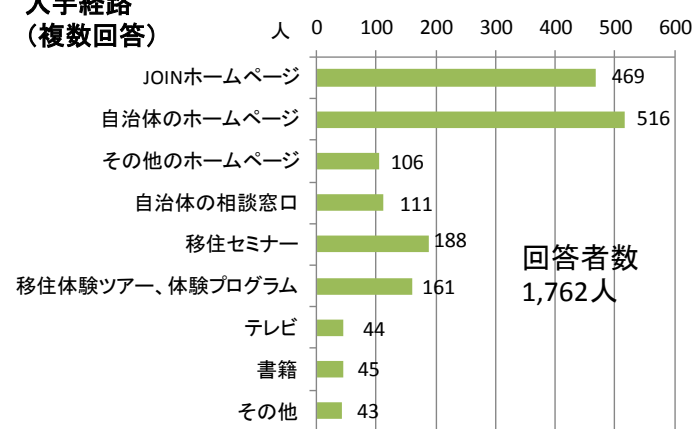
④ 希望する土地



⑤ 移住を考える際の必要な情報(複数回答)



⑥ 必要な情報の入手経路(複数回答)



(データ提供)
①～④NPOふるさと回帰支援センター来場者アンケート2014年から(回答者2,885人)

(データ提供)
⑤、⑥JOIN(移住・交流推進機構)開催「移住・交流&地域おこしフェア2015」(2015年1月18日)、来場者6,832人を対象としたアンケート